
令和元年度
病院事業計画について

- 1) 病院事業計画のまとめ
- 2) 直近5年の経営実績



令和2年10月1日

荒尾市民病院 経営企画課

◆目次

1章 病院事業計画のまとめ

*年度当初の目標値と実績の比較

1) 主な取り組み **【1】**

2) 医業収益の確保 **【2】**

i) 患者数等

ii) 診療単価のUP

3) 経営の効率化 **【4】**

i) 人件費の適正化

ii) 材料費の削減

iii) 戦略的経営の実施

2章 直近5年の経営実績

*黒字自治体病院との比較（医業利益がある病院）

1) 主な経営指標の推移（グラフ） **【7】**

2) 診療実績 **【12】**

3) 決算状況 **【13】**

*主な数値は決算統計を基に算出しています。

1章 病院事業計画のまとめ

1) 主な取り組み

総 評

今年度の主な取り組みとして、下記の3つを主に実践し、結果を残す事ができた。
また、経営においては平成21年度より11期連続で単年度黒字を計上しており（平成26年度は会計制度の変更により赤字であったが、実質黒字である。）令和元年度は前年度と比べ入院収益で約118,168千円の減収となったが、外来収益で約75,243千円の増収があったため、2,478千円の純利益を計上することができた。
累積欠損金は、平成20年度に最大4,255,501千円であったが、毎年度順調に解消しており、令和元年度末には828,159千円まで減少した。
今後も継続して第二期中期経営計画を基に、地域完結型医療の提供体制の維持、また、新病院建設へ向けて、収益の確保と費用削減を徹底し、経営の健全化を目指す。

1) 災害拠点病院の指定 災害拠点病院及び熊本DMAT指定病院の指定

令和2年1月8日付けで、「熊本DMAT指定病院」に指定され、現在、災害医療チーム（DMAT）を1チーム保有しており、日本DMAT隊員として、医師3名、看護師2名、事務職員1名が在職している。

また、令和2年2月13日付けで、熊本県より「災害拠点病院」に指定され、今後、被災地からの重症・重傷患者の受け入れや搬送災害派遣医療チーム（DMAT）の保有など、災害時の医療救護活動の中心的な役割を担っている。

2) 新病院建設 新病院建設に向けて基本設計及び実施設計準備

平成30年8月に「新病院建設基本計画」を策定し、これらを踏まえて建設計画の基本となる建設概要、配置計画、平面計画等を主な内容とする「新病院建設基本設計」の内容を令和元年11月に取りまとめている。

また、実施設計に向けてECI方式を採用するための公募型プロポーザル及び新病院におけるエネルギーサービス事業に係る公募型プロポーザルの準備及び公告を実施し、次年度の契約に向けて進めている。

3) 医療機器の整備 医療機器の導入・更新及び新病院へ向けた機器整備計画

最新の画像情報システム（診断・治療R I S）、内視鏡情報管理システム、総合健診システム、一般X線撮影装置等の更新、及び次年度より新規診療科の開設する耳鼻咽喉科の医療機器の整備を行っている。

さらに、新病院へ向けてた医療機器整備計画として、当年度は医療機器等の現有品調査及び部署毎に現場担当者への希望調査ヒアリングによる整備・配置計画を実施している。

今後、予算内での整備・購入計画を進めるため、導入機器の優先順位や具体的仕様について絞り込み、新築移転に伴う医療機器整備計画の具体化を進めている。

1章 病院事業計画のまとめ

2) 医業収益の確保

i) 患者数等

区分	H30 実績 A	R1 目標 B	R1 実績 C	前年実績 対 差引 C-A	目標 対 差引 C-B
入院患者数	230.6 人/日	239.0 人/日	225.6 人/日	△ 5.0 人/日	△ 13.4 人/日
新規入院患者数	4,210人	4,800人	4,127人	△ 83人	△ 673人
年間平均在院日数	15.4日	14.5日	15.6日	△0.2日	△1.1日
入院診療単価	48,182円	50,047円	47,639円	△543円	△2,408円
外来患者数	348.6 人/日	360.0 人/日	351.3 人/日	2.7 人/日	△ 8.7 人/日
外来診療単価	18,049円	18,167円	19,104円	1,055円	937円
病床稼働率(274床)	84.2%	87.2%	82.3%	△1.9%	△4.9%
(256床)	90.1%	93.4%	88.1%	△2.0%	△5.3%

*274床・・・許可病床 *256床・・・実稼働病床

入院について、令和元年度の1日平均患者数は前年度比5.0人減の225.6人となった。新規入院患者数では、前年度比83人減の4,127人となり、病床稼働率においても前年度比1.9%減の82.3%（274床）となった。

また、患者1人1日当たりの診療単価は、前年度比543円減の47,638円となり、全ての数値において前年度を下回る結果となった。

予算目標値との比較では、1日平均患者数において13.4人減、診療単価において2,408円の減となり、年間平均在院日数においても1.1日届かず目標値を達成することはできなかった。

外来について、令和元年度の1日平均患者数は前年度比2.7人増の351.3人となった。

また、診療単価は前年度比1,055円増の19,104円となり、前年を上回る医業収益を確保することができた。

予算目標値との比較では、1日平均患者数において8.7人減となり目標値に及ばなかった状況である。しかし、診療単価については、937円増と目標を上回ることができた。

これらの結果より、入院収益では118,168千円の減少、外来収益では75,243千円の増収となり、合計42,925千円の減収となった。

1章 病院事業計画のまとめ

2) 医業収益の確保

ii) 診療単価のUP

①DPCの機能評価係数UP

区分		H30.4	H31.4	R2.4	前年増減
基礎係数		1.0314	1.0314	1.0404	0.0090
機能評価係数Ⅱ	小計	0.08802	0.08207	0.07932	▲ 0.0027
機能評価係数Ⅰ	小計	0.2413	0.2448	0.2748	0.0300
合計		1.3607	1.3583	1.3945	0.0362
参考	公立玉名中央病院	1.3739	1.3655	1.4169	0.0514
	大牟田市立病院	1.4260	1.4299	1.4552	0.0253
	公立八女総合病院	1.4778	1.4696	1.5047	0.0351
	筑後市立病院	1.3866	1.2827	1.3681	0.0854
	福岡市民病院	1.3819	1.4145	1.4256	0.0111

令和元年10月には、消費税率の変更（8%→10%）に伴う診療報酬改定により0.0048ポイント増加することとなった。

しかし、機能評価係数Ⅱにおいては、在院日数の短縮による効率性係数や災害拠点病院の指定及びDMAT指定により0.0016ポイントの増加となった一方、複雑性係数及び救急医療係数等の減少により合計0.0027ポイント減少することとなった。複雑係数に関しては、当年度の診療科別の患者構成の変化が大きく影響する為、意図的に増やすことは不可能と考えられる。なお、救急医療係数に関しては、救急医療管理加算2の算定件数が44件減少したことも影響しているものとする。

また、令和2年4月の診療報酬改定により、基礎係数は0.009ポイント増、機能評価係数Ⅰは0.03ポイント増となり、令和2年4月1日時点での医療機関係数は1.3945となり、前年同月比0.0362の増加となった。しかし、参考に示す近隣の5自治体病院と比べても、係数が低いことがわかる。

今後の収益確保において、医療機関別係数を増加させるためには、係数ダウンの要因分析及び職員間での情報の共有が必須課題であり、さらに今後も施設基準の取得及び上位加算の取得などにより、診療内容を充実させ医業収益の確保に努めなければならない。

②在院日数の短縮

(日)

区分	H30	R1目標	R1	前年増減
平均在院日数	15.4	14.5日	15.6	0.2
新規入院患者(人)	4,210	4,800	4,127	▲ 83
退院患者数(人)	4,186	-	4,158	▲ 28

本年度は、前年と比較して新規入院患者数は83人、退院患者数は28人減少している。さらに、平均在院日数は昨年と比べ0.2日増加し15.6日となり短縮することができなかった。

さらに、目標数である新規入院患者数4,800人には673人及ばず、在院日数14.5日には1.1日及ばなかった。

目標値である14.5日を目指すには、現在非常に適用率が低いパスの充実・実施や退院支援の強化等により回転率を向上させる必要がある。

今後は、目標数に達するような新規入院患者数を確保することで、平均在院日数の短縮、病床稼働率の向上、患者1人1日当たりの診療単価の向上に繋げ、「より効率的な経営」を実践しなければならない。

1章 病院事業計画のまとめ

3) 経営の効率化

i) 人件費の適正化

①医師の働き方改革への対応（医師の労働時間短縮に向けた取り組み）

医師の働き方改革への取り組みへの着手として、医師の勤怠管理方法の是正を実施した。具体的には、(1)医師の就業管理責任者の設置、(2)出退勤時等における打刻の徹底、(3)休暇及び残業等申請の電子化、(4)各医師の週間業務スケジュール把握に取り組んだ。

(1)については、副院長2名を管理責任者として、各医師の就業状況についての管理を開始し、勤怠管理を強化した。

この体制で(2)～(4)に取り組み、(2)については、施行前後で、出退勤等の未打刻を48.4%削減することができた。(3)については、研修医以外の全員について電子化を実現した。(尚、研修医については時間外勤務の管理を各指導医が実施しており、日々確認を行う方法としているため、電子化はしない。)

今後、(2)については更なる削減に向けて取り組みたい。

②年休取得義務への対応と更なる取得推進

労働基準法の改正により、令和元年度より、年10日以上の子次有給休暇が付与される職員について、年5日の取得が義務化された。このような中、当院においては、義務化への対応と更なる取得推進のための取り組みを行った。各所属においては、所属長が各職員の休暇取得状況を月単位で把握し、各職員へ向けて休暇取得を促した。医局に関しては、月毎に年休の取得が少ない方のリストを掲示することで、各医師へ休暇取得を促した。

実施前後（平成30年度及び令和元年度）の子次休暇取得状況は、下記表のとおりである。いずれの部署も、年休取得日数が増加しており、全体では平均3.4日増、取得率は16.4%増という結果となった。

今回の結果については、所属長が各職員の状況を細やかに把握し、声掛けをおこなったことにより、少なからず子次休暇を取得しやすい環境をつくることができたことと評価する。今後は、職員の健康状態についても配慮するよう、恒常的な時間外勤務への対策も行いたい。

正職員等（常勤職員） 年休取得日数・取得率

	医師		看護師等		医療技術職		事務職		福祉職		全体	
	1人平均取得日数	取得率	1人平均取得日数	取得率	1人平均取得日数	取得率	1人平均取得日数	取得率	1人平均取得日数	取得率	1人平均取得日数	取得率
H30	3.7	19.2%	5.7	29.0%	7.3	36.6%	7.1	34.2%	6.4	31.9%	6.0	30.2%
R1	8.6	45.6%	8.7	42.8%	11.3	56.1%	9.8	46.6%	7.8	39.0%	9.4	46.6%

3.4日増 16.4%UP

③会計年度任用職員制度導入（同一労働同一賃金の原則）

働き方改革の一つとして、令和2年度より同一労働同一賃金の原則が適用となる。これまで、当院の非常勤職員は、非常勤職員のための規則の下での労働としていたが、この内容を大幅に見直し、会計年度任用職員制度を導入することとなった。給与・休暇等、様々な処遇を、同一労働同一賃金の原則に照らし合わせ、当院における規則の整備を行った。対象見込みの職員には、制度に関する説明会と個別面談を実施し、制度に関する理解を得て導入した。

実際には、令和2年度から施行し、適用していくこととなる。今後も、公平公正な人事・労務管理を行い、組織の活性化に繋げていきたい。

1章 病院事業計画のまとめ

3) 経営の効率化

ii) 材料費の削減

①薬品費削減

(円)

区分	H30	R1目標(予算)	R1	前年増減
値引率	13.0%	15.0%	12.6%	△0.4%
後発品医薬品目割合	27.6%	30%以上	28.6%	1.0%
後発品医購入金額割合	11.6%	-	10.1%	△1.5%
後発品使用量割合	90.7%	80%以上	91.7%	1.0%
医業収益比率(薬品)	12.5%	12.7%	13.4%	0.9%
薬品費	744,156,125	800,000,000	794,670,618	50,514,493
医業収益	5,967,591,071	6,322,599,000	5,917,728,313	▲49,862,758

価格交渉等による値引率は12.6%となり目標である15.0%は達成することができず、さらに、前年より0.4%下回った。後発医薬品に関しては、品目割合及使用量割合において前年を上回る結果となったが、購入金額割合では1.5%減少した。

結果として、薬品の医業収益比率は目標である12.7%と比較して0.7%増加し、さらに昨年度比較すると0.9%増加した。

薬価が下がる傾向にある環境下で値引率を維持する困難な状況にあるが、今後も継続して後発医薬品の割合、使用量共に増やすとともに、薬品費の約2割を占める高額薬剤の取扱及び交渉にも注力し、薬品費の対医業収益比率をさらに減らしていく必要がある。

②材料費の医業収益比率

(円)

区分	H30	R1目標(予算)	R1	前年増減
材料費	1,240,044,930	1,317,700,000	1,278,824,815	38,779,885
うち薬品費	744,156,125	820,000,000	794,670,618	50,514,493
うち診療材料費	485,076,225	485,700,000	473,449,302	▲11,626,923
医業収益	5,967,591,071	6,229,697,000	5,917,728,313	▲49,862,758
医業収益比率：材料	20.8%	21.2%	21.6%	0.8%
うち薬品	12.5%	13.2%	13.4%	1.0%
うち診療診療材料	8.1%	8.0%以下	8.0%	-0.1%

医業収益は前年と比べ約5,000万円減少したこともあり、診療材料費で約1,200万円減少したが、薬品費では約5,000万円の増加となっている。さらに、予算範囲内とはなったが、比率比較すると薬品費で0.2%の増加の影響であったこともあり、材料費全体で0.4%の増加となった。

さらに、昨年の実績と比較すると、薬品費では高額薬剤の増加の影響もあり昨年より0.8%増加、診療材料は同等程度となり、全体で0.8%の増加となった。

今後も継続的に材料費の価格交渉を実施し、医療収益比率を抑え利益率の向上を目指す必要がある。

1章 病院事業計画のまとめ

3) 経営の効率化

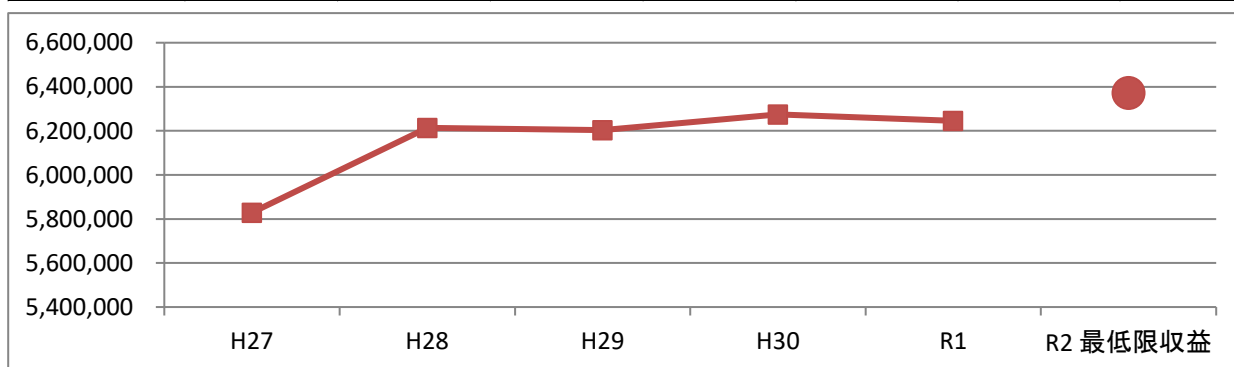
iii) 戦略的経営の実施

R2目標純利益 57,076千円

損益分岐点の分析による次年度の経常収益管理

(千円)

区分	H27	H28	H29	H30		R1	R2 最低限必要 な収益
				当院	黒字病院 (274床)		
経常収益	5,828,884	6,213,189	6,203,070	6,274,049	8,430,142,239	6,246,133,194	6,370,619,607
変動費	1,139,465	1,266,812	1,195,697	1,240,045	2,145,277,526	1,278,824,815	1,264,191,782
固定費	4,501,581	4,533,363	4,732,051	4,889,509	5,984,056,435	4,958,831,613	4,958,831,613
限界利益	4,689,419	4,946,377	5,007,373	5,034,004	6,284,864,713	4,967,308,379	5,106,427,825
経常利益	187,838	413,015	275,322	144,495	300,808,278	8,476,766	
限界利益率	80.5%	79.6%	80.7%	80.2%	74.6%	79.5%	
損益分岐点	5,595,403	5,694,398	5,862,005	609,396	8,026,655,977	6,235,474,099	
FM比率	96.0%	91.7%	94.5%	97.1%	95.2%	99.8%	



限界利益率が高いほうが経営的には利益が上がりやすいため、固定費の削減や変動費(率)の削減に力を入れる必要がある。なお、全国黒字病院と比較しても、約5%高い結果となり、効率的な経営ができています。

しかし、FM比率は平成28年度以降、継続して悪化しており、令和元年度は99.8%と前年と比べ2.7%悪化している。また、全国の黒字病院との比較においても利益が出にくい、経営結果状況へとなっている。

上記内容の要因としては、新病院へ向けた職員の増員による人件費の増加、建設に関する委託費など固定費の増加が主な要因である。新病院建設移転まで、人件費及び委託費の増加、予期しない支出などが見込まれるため、安定した経営には少しでも多くの利益を追求する必要がある。短期間での収益確保に向けた取り組みが必要である。

なお、令和2年度の目標を達成するために、経常収益6,370,620千円を必ず確保しなければならない。

【固定費】患者の増加に関係なく必要な費用（給与費、経費、研究研修費・・・等）

【変動費】上記以外の患者数により増加する費用（材料費）

【限界利益】患者数が0人の時でも、最低限必要な金額（経常収益-変動費）（利益+固定費）

【限界利益率】売上高に対する限界利益の割合であり、率が高いほど利益が増加

【FM比率】固定費の限界利益に対する比率であり、率が低いほど効率的な経営

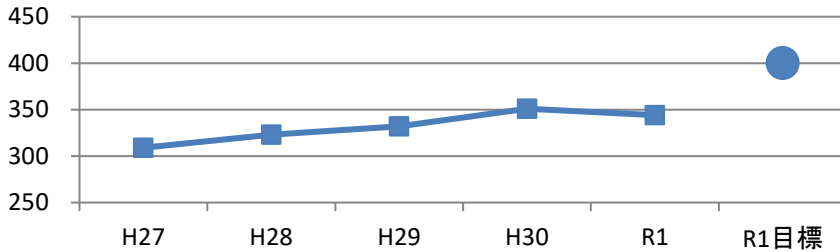
2章 直近5年の経営実績

1) 主な経営指標の推移

(1) 新規入院患者数の増加

(人/月)

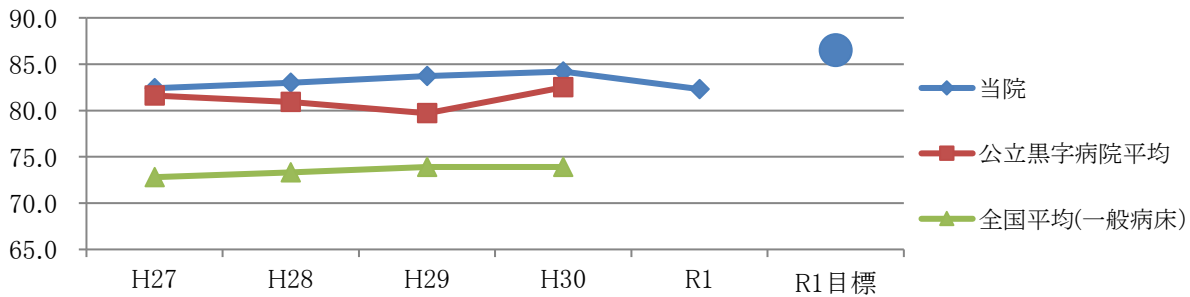
区分	H27	H28	H29	H30	R1	R1目標
月平均	309	323	332	351	344	400



(2) 病床稼働率 (274床)

(%)

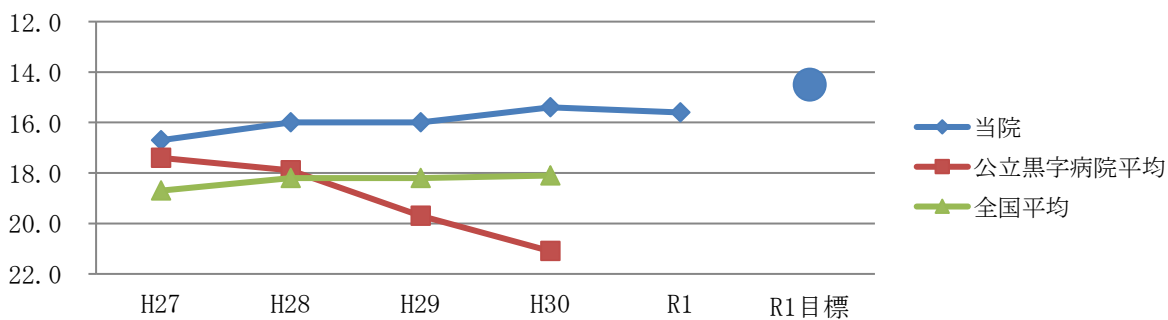
区分	H27	H28	H29	H30	R1	R1目標
当院	82.4	83.0	83.7	84.2	82.3	86.5
公立黒字病院平均	81.6	80.9	79.7	82.5	-	-
全国平均(一般病床)	72.8	73.3	73.9	73.9	-	-



(3) 平均在院日数(一般病床のみ)

(日)

区分	H27	H28	H29	H30	R1	R1目標
当院	16.7	16.0	16.0	15.4	15.6	14.5
公立黒字病院平均	17.4	17.9	19.7	21.1	-	-
全国平均	18.7	18.2	18.2	18.1	-	-



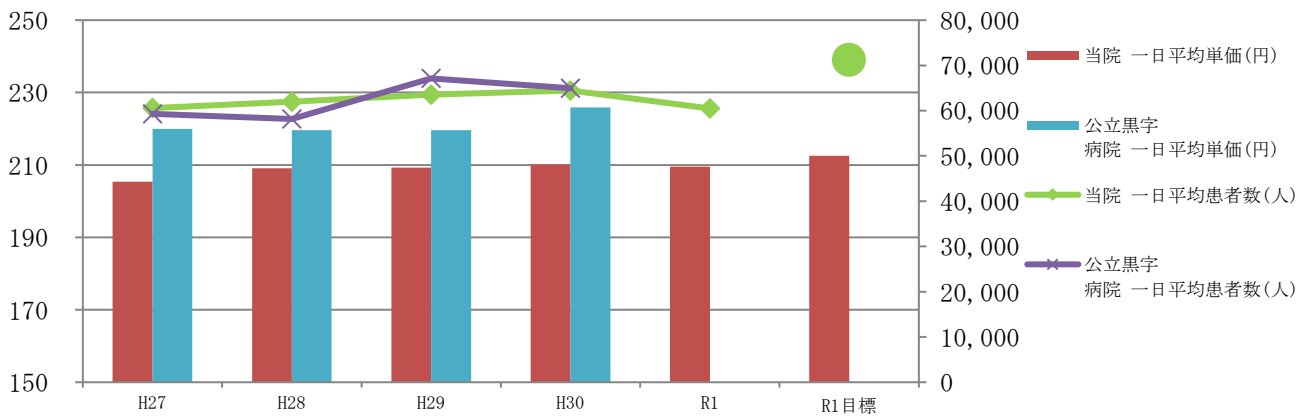
2章 直近5年の経営実績

1) 主な経営指標の推移

(4) 入院患者数等

* 公立黒字病院は274床換算

		H27	H28	H29	H30	R1	R1目標
当院	一日平均患者数(人)	225.7	227.5	229.4	230.6	225.6	239.0
	一日平均単価(円)	44,270	47,288	47,383	48,142	47,639	50,047
公立黒字病院	一日平均患者数(人)	224.2	222.7	233.9	231.2	-	-
	一日平均単価(円)	55,962	55,715	55,684	60,729	-	-

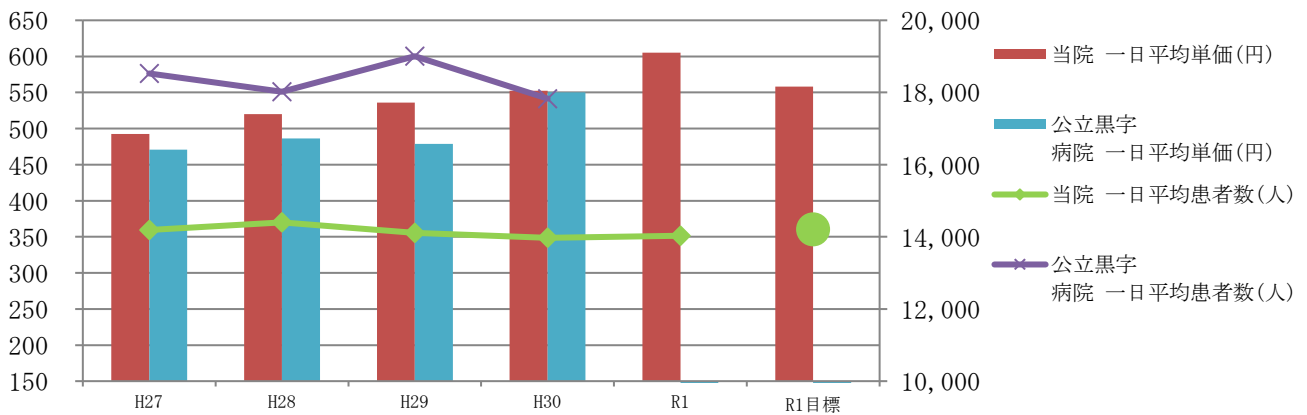


(5) 外来患者数等

* 公立黒字病院は274床換算

		H27	H28	H29	H30	R1	R1目標
当院	一日平均患者数(人)	359.3	370.0	355.6	348.6	351.3	360.0
	一日平均単価(円)	16,852	17,400	17,721	18,049	19,104	18,167
公立黒字病院	一日平均患者数(人)	577	551	600	541.5	-	-
	一日平均単価(円)	16,414	16,729	16,575	18,008	-	-

* 本院の特性である医師会との役割分担(2次救急以上等)を重要視している為、患者数は少ない傾向にある。



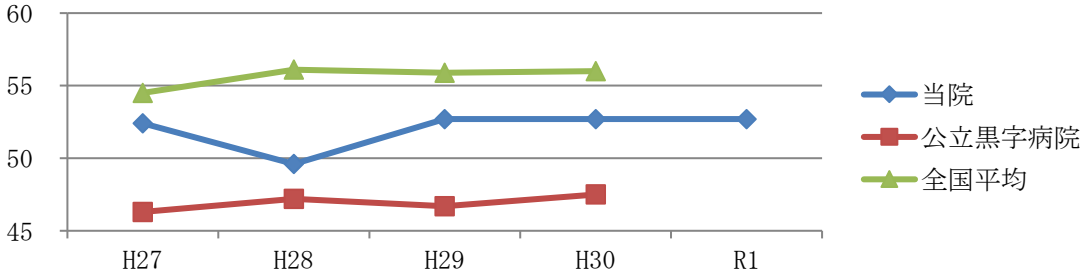
2章 直近5年の経営実績

1) 主な経営指標の推移

(6) 職員給与費対医業収益比率 (%)

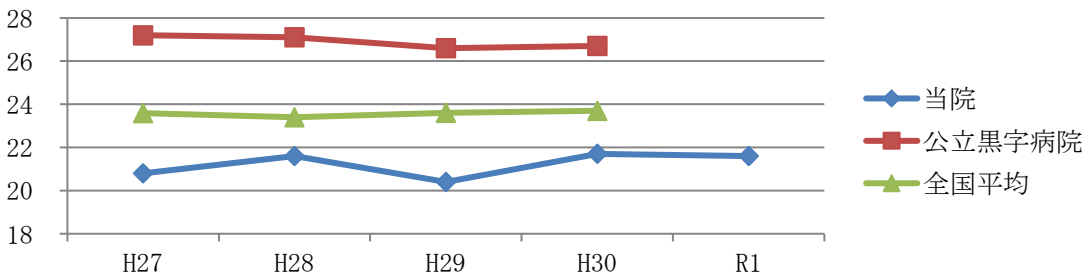
区分	H27	H28	H29	H30	R1
当院	52.4	49.6	52.7	52.7	52.7
公立黒字病院	46.3	47.2	46.7	47.5	-
全国平均	54.5	56.1	55.9	56.0	-

*決算統計上の給与とは、週労働時間が38.75時間の職員のみ(勘定科目とおり:60.8%)



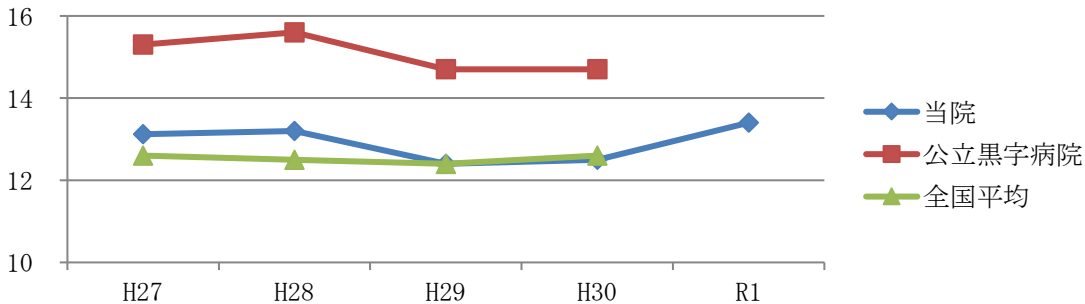
(7) 材料費対医業収益比率 (薬品含む) (%)

区分	H27	H28	H29	H30	R1
当院	20.8	21.6	20.4	21.7	21.6
公立黒字病院	27.2	27.1	26.6	26.7	-
全国平均	23.6	23.4	23.6	23.7	-



(8) 薬品費対医業収益比率 (%)

区分	H27	H28	H29	H30	R1
当院	13.1	13.2	12.4	12.5	13.4
公立黒字病院	15.3	15.6	14.7	14.7	-
全国平均	12.6	12.5	12.4	12.6	-



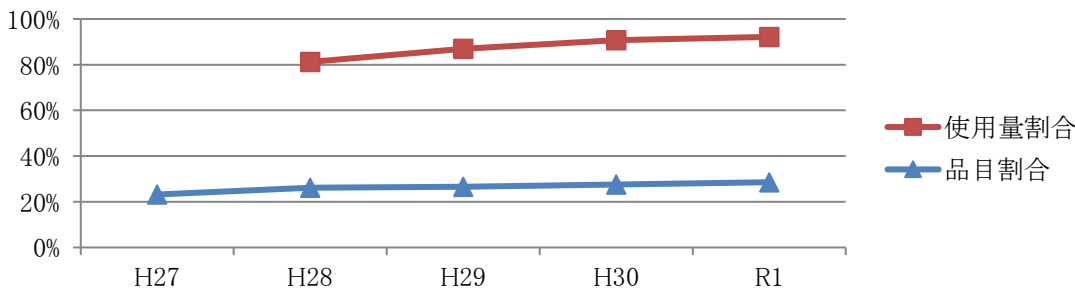
2章 直近5年の経営実績

1) 主な経営指標の推移

(9) 後発医薬品の採用品目割合

(品)

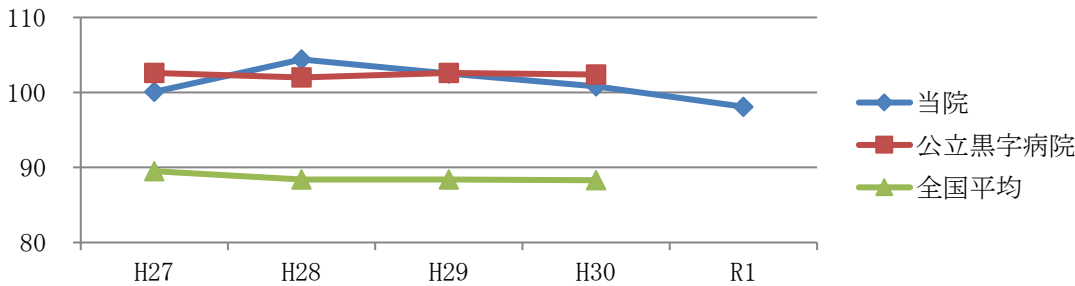
区分	H27	H28	H29	H30	R1
採用医薬品	1,574	1,575	1,562	1,510	1,369
うち後発医薬品	365	413	416	417	391
品目割合	23.2%	26.2%	26.6%	27.6%	28.6%
後発品のある先発品使用量	331,317	173,988	125,974	88,130	71,324
後発品の使用量	677,139	752,129	842,020	858,103	841,466
使用量割合	67.1%	81.2%	87.0%	90.7%	92.2%



(10) 医業収支比率

(%)

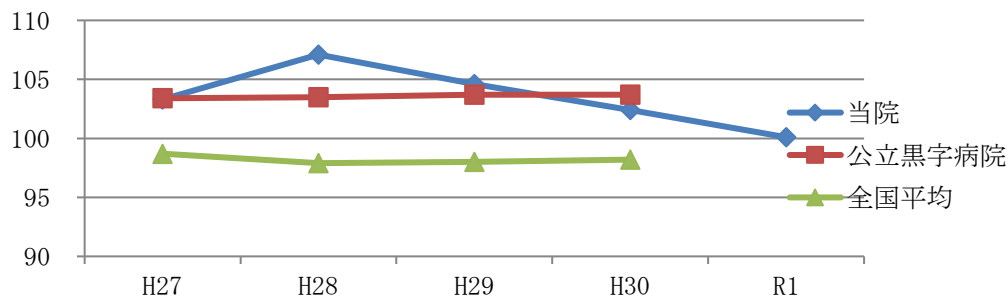
区分	H27	H28	H29	H30	R1
当院	100.1	104.4	102.5	100.8	98.1
公立黒字病院	102.6	102.0	102.6	102.4	-
全国平均	89.5	88.4	88.4	88.3	-



(11) 経常収支比率

(%)

区分	H27	H28	H29	H30	R1
当院	103.3	107.1	104.6	102.4	100.1
公立黒字病院	103.4	103.5	103.7	103.7	-
全国平均	98.7	97.9	98.0	98.2	-

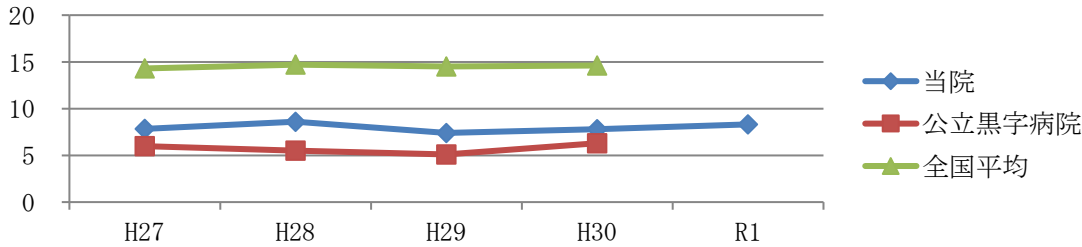


2章 直近5年の経営実績

1) 主な経営指標の推移

(12) 他会計繰入金対医業収益比率 (収益的収支) (%)

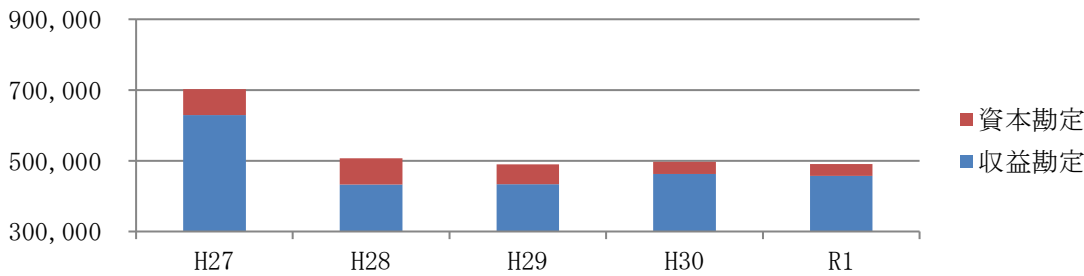
区分	H27	H28	H29	H30	R1
当院	7.8	8.6	7.4	7.8	8.3
公立黒字病院	6.0	5.5	5.1	6.3	-
全国平均	14.3	14.7	14.5	14.6	-



(13) 他会計からの繰入状況 (千円)

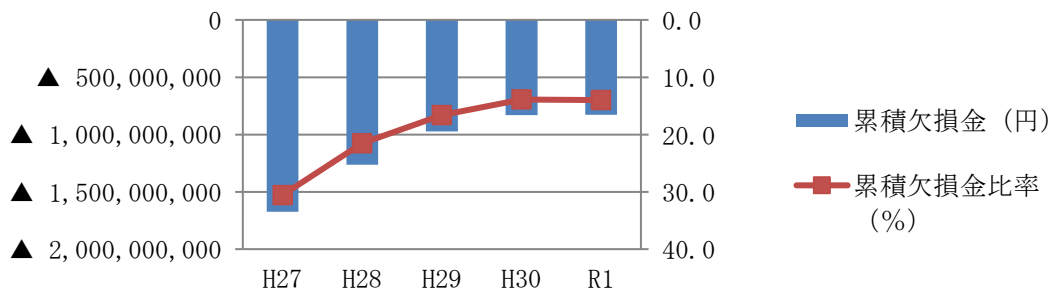
区分	H27	H28	H29	H30	R1
収益勘定	629,145	432,700	433,412	462,494	457,030
資本勘定	73,002	74,261	55,978	34,804	33,245
合計	702,147	506,961	489,390	497,298	490,275

*H28年より特例債償還に伴い、特例債 (約2億円) に対する繰入金の減少



(14) 累積欠損金

区分	H27	H28	H29	H30	R1
累積欠損金 (円)	▲ 1,674,464,687	▲ 1,263,919,184	▲ 973,547,656	▲ 830,637,402	▲ 828,159,282
累積欠損金比率 (%)	30.5	21.6	16.6	13.9	14.0



2章 直近5年の経営実績

2) 診療実績

区分	H27実績	H28実績	H29実績	H30			R1実績		
				当院実績	黒字病院	差			
病床100床当たり医業収益(千円)	入院収益	1,334,941	1,432,938	1,448,013	1,478,690	1,800,221	▲ 321,531	1,435,563	
	外来収益	534,760	570,981	561,238	560,291	835,813	▲ 275,522	587,752	
	その他医業収益	130,689	136,110	133,610	138,972	143,140	▲ 4,168	136,440	
	内室料差額収益	4,674	4,524	5,005	5,555	24,760	▲ 19,205	4,308	
	計	2,000,391	2,140,029	2,142,861	2,177,953	2,779,175	▲ 601,222	2,159,755	
病床利用率(%)	一般	83.6	84.2	85.0	85.4	82.5	2.9	83.5	
	感染症	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	▲ 0.3	0.1	
	計	82.4	83.0	83.7	84.2	81.1	3.1	82.3	
1日平均患者数(人)	入院	225.7	227.5	229.4	230.6	231.2	▲ 1	225.6	
	外来	359.3	370.0	355.6	348.6	550.6	▲ 202	351.2	
患者1人1日当たり診療収入(円)	入院	44,270	47,288	47,383	48,142	60,729	▲ 12,587	47,639	
	外来	16,852	17,400	17,721	18,049	18,008	41	19,104	
平均在院日数(一般病床のみ)	16.7	16.0	16.0	15.4	21.1	▲ 5.7	15.4		
医師1人1日当たり診療収入(円)	362,817	395,871	374,743	315,585	342,777	▲ 27,192	309,403		
看護師1人1日当たり診療収入(円)	70,750	75,616	76,212	65,371	73,991	▲ 8,620	73,145		
病床100床当たり職員数(人)	医師	13.9	13.9	14.6	17.5	21.2	▲ 4	18.2	
	看護部門	看護師	75.5	74.5	75.5	74.8	87.4	▲ 13	76.6
		准看護師	0.0	0.0	0.0	0.0		0	0.0
		看護助手	0.0	0.0	0.0	0.0		0	0.0
	薬剤部門	3.6	3.6	2.6	2.6	5.0	▲ 2	2.9	
	事務部門	9.5	9.5	9.5	9.1	14.5	▲ 5	8.4	
	給食部門	1.1	1.1	1.1	1.1	2.8	▲ 2	1.1	
	放射線部門	4.7	4.7	5.1	5.1	4.9	0	5.5	
	臨床検査部門	5.1	5.1	5.8	5.8	6.5	▲ 1	6.6	
	その他	17.5	17.9	19.7	21.9	13.9	8	24.1	
計	131.0	130.3	133.9	138.0	164.5	▲ 27	143.4		
平均年齢	事務職員	39.9	40.9	41.9	42.1	43.0	▲ 0.9	42.0	
	医師	45.5	45.9	44.9	42.7	45.0	▲ 2.3	43.2	
	看護師	38.9	39.2	38.8	37.1	39.0	▲ 1.9	37.3	
	准看護師	-	-	-	-	-	-	-	
	医療技術員	37.1	34.9	35.2	37.7	39.0	▲ 1.3	35.2	
	その他職員	28.4	31.0	33.3	34.0	47.0	▲ 13	35.9	
	計	39.0	38.9	38.7	38.2	40.0	▲ 1.8	38.2	

* 黒字病院：自治体病院のうち医業利益がある病院（785病院中41病院）

* 職員数については、週労働時間が38.75時間の方が対象

* 職員数【その他】：リハビリテーション科、臨床工学科、社会福祉士、精神福祉士、介護士・・・等

2章 直近5年の経営実績

3) 決算状況

区分	H27実績		H28実績		H29実績		H30実績			R1実績		
	(100床当)		(100床当)		(100床当)		(100床当)			(100床当)		
							当院	黒字病院	差			
経常収益 A	5,828,884	2,127,330	6,213,190	2,267,588	6,203,070	2,263,894	6,274,049	2,289,799	2,961,230	▲ 671,432	6,246,133	2,279,611
医業収益 a	5,481,070	2,000,391	5,863,679	2,140,029	5,871,438	2,142,861	5,967,591	2,177,953	2,779,175	▲ 601,222	5,917,728	2,159,755
うち料金収入 (b+c)	5,122,981	1,869,701	5,490,737	2,003,919	5,505,347	2,009,251	5,586,808	2,038,981	2,636,034	▲ 597,053	5,543,883	2,023,315
入院収益 b	3,657,738	1,334,941	3,926,250	1,432,938	3,967,555	1,448,013	4,051,610	1,478,690	1,800,221	▲ 321,531	3,933,442	1,435,563
外来収益 c	1,465,243	534,760	1,564,487	570,981	1,537,792	561,238	1,535,198	560,291	835,813	▲ 275,522	1,610,441	587,752
うち他会計繰入金 d	213,390	77,880	217,779	79,481	218,140	79,613	230,274	84,042	70,541	13,500	228,764	83,491
医業外収益	347,814	126,939	349,511	127,559	331,632	121,034	306,458	111,846	182,056	▲ 70,210	328,405	119,856
うち他会計繰入金 e	288,757	105,386	289,182	105,541	215,272	78,566	241,544	88,155	107,419	▲ 19,264	261,511	95,442
経常費用 B	5,641,046	2,058,776	5,800,175	2,116,852	5,927,748	2,163,412	6,129,554	2,237,064	2,855,566	▲ 618,503	6,242,318	2,278,218
医業費用 f	5,473,155	1,997,502	5,617,881	2,050,322	5,729,089	2,090,908	5,921,430	2,161,106	2,714,051	▲ 552,945	6,034,184	2,202,257
うち職員給与費 g	2,872,930	1,048,515	2,908,470	1,061,485	3,094,760	1,129,474	3,142,788	1,147,003	1,319,173	▲ 172,170	3,116,392	1,137,369
うち材料費	1,139,465	415,863	1,266,812	462,340	1,250,892	456,530	1,295,219	472,708	753,565	▲ 280,857	1,333,948	486,842
うち減価償却費 h	267,362	97,577	233,975	85,392	236,284	86,235	263,833	96,289	167,992	▲ 71,702	247,896	90,473
うち委託費	446,148	162,828	445,550	162,609	403,948	147,426	458,906	167,484	235,623	▲ 68,140	603,720	220,336
医業外費用	167,891	61,274	182,294	66,531	198,659	72,503	208,124	75,958	141,515	▲ 65,558	208,134	75,961
うち支払利息	13,179	4,810	9,872	3,603	7,142	2,607	5,841	2,132	31,288	▲ 29,156	4,662	1,701
医業損益 (a-f) C	7,915	2,889	245,798	89,707	142,349	51,952	46,161	16,847	65,124	▲ 48,277	▲ 116,456	▲ 42,502
経常損益 (A-B) D	187,838	68,554	413,015	150,735	275,322	100,482	144,495	52,735	105,664	▲ 52,929	3,815	1,392
特別利益	200,447	73,156	738	269	21,667	7,908	1,934	706	15,295	▲ 14,589	1,930	704
うち他会計繰入金 i	200,000	72,993	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別損失	1,286	469	3,207	1,170	6,617	2,415	3,519	1,284	24,568	▲ 23,283	3,267	1,192
純損益 E	386,999	141,241	410,546	149,834	290,372	105,975	142,910	52,157	96,391	▲ 44,234	2,478	904
繰入前 医業損益 (C-d)	▲ 205,475	▲ 74,991	28,019	10,226	▲ 75,791	▲ 27,661	▲ 184,113	▲ 67,195	▲ 5,418	▲ 61,777	▲ 345,220	▲ 125,993
繰入前 経常損益 (D-d-e)	▲ 373,366	▲ 136,265	▲ 154,275	▲ 56,305	▲ 274,450	▲ 100,164	▲ 392,237	▲ 143,152	▲ 146,933	3,781	▲ 553,354	▲ 201,954
繰入金 (収益勘定) 計 d+e+i	702,147	256,258	506,961	185,022	433,412	158,180	471,818	172,196	177,960	▲ 5,764	490,275	178,932
資本的収入 (純計)	95,000	34,672	176,734	64,501	464,978	169,700	539,704	196,972	-	-	201,195	73,429
うち企業債	95,000	34,672	163,200	59,562	409,000	149,270	503,700	183,832	-	-	166,400	60,730
うち他会計繰入金 j	0	0	0	0	55,978	20,430	25,480	9,299	-	-	0	0
資本的支出 (純計)	590,366	215,462	474,123	173,038	669,700	244,416	846,145	308,812	-	-	512,136	186,911
うち建設改良費	104,742	38,227	177,862	64,913	410,009	149,638	522,491	190,690	-	-	186,780	68,168
うち企業債償還金	467,774	170,720	275,111	100,405	227,491	83,026	281,954	102,903	-	-	278,806	101,754
繰入金合計 計 d+e+i+j	702,147	256,258	506,961	185,022	489,390	178,609	497,298	181,496	177,960	3,536	490,275	178,932
減価償却前経常損益 D+h	455,200	166,131	646,990	236,128	511,606	186,718	408,328	149,025	273,656	▲ 124,631	251,711	91,865
経常収支比率 A÷B	103.3	-	107.1	-	104.6	-	102.4	-	103.7	▲ 1.3	100.1	-
医業収支比率 a÷f	100.1	-	104.4	-	102.5	-	100.8	-	102.4	▲ 1.6	98.1	-
職員給与費対医業収益比率 g÷a	52.4	-	49.6	-	52.7	-	52.7	-	47.5	5.2	52.7	-
他会計繰入金対医業収益比率 (d+e)÷a	9.2	-	8.6	-	7.4	-	7.9	-	6.4	1.5	8.3	-
不良債務額 (千円)	5,537	-	0	-	0	-	0	-	-	-	0	-
不良債務比率 (千円)	0.1	-	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-	-	0.0	-
累積欠損金 (千円)	▲ 1,674,465	-	▲ 1,263,919	-	▲ 973,547	-	▲ 830,637	-	-	-	▲ 828,159	-
累積欠損金比率 (千円)	▲ 30.5	-	▲ 21.6	-	▲ 16.6	-	▲ 13.9	-	-	-	▲ 14.0	-

* 黒字病院：自治体病院のうち医業利益がある病院（772病院中32病院）

* 平成26年度より地方公営企業会計基準が変更となりましたので、適用前後で考え方が一部異なります。